

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、理念「心」を認識しながら月の目標、日々の目標を定め、顧みる機会を持ちながら実践に努めている。	企業理念である「心」に基づき、社長から示された運営方針をもとに、事業所でも年度目標を設定しているほか、職員個々に目標を設定して、毎月の振り返りも行い、理念の実現に向けた取り組みが行われています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当癒しの家が一つの家庭で有る様に地域の相談事や、行事、役割に積極的に参加すると共に、地域の方々が、日常的に立ち寄られる様交流している。	清里地区の祭りや神社の清掃活動といった地区の行事に積極的に参加するとともに、小学生に定期的に来てもらったり、中学生や高校生の体験学習の受け入れも行う等、地域の方々との交流に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長を通し地域の寄り合いの場に認知症のパンフレットを置く事や、地域の家庭の相談にのっている。又、介護を教材に取り組んでいる地元の小学生や中学生・高校生を招き高齢者の生き甲斐や可能性の引き出し方・話し相手などの場を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの事業や状況報告に加え、懸案事項等の解消に繋がる意見交換に重点を置き、関連機関との情報交換や連携もスムーズに行いサービスに活かしている。	2ヶ月に1回、老人会長や包括支援センター職員、民生委員、ご家族代表等に出席していただき、事業所からの報告に加え、事業所の課題に対して参加者と意見交換をすることに重点が置かれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者からは猛暑時の乗り切り方や突発的な地震時の安否確認、職員のメンタルケア等に至るまでアドバイスを受ける他、市主催の行事の参加を通して入居者が地域に馴染んで暮らせるよう連携している。	2ヶ月に1回の運営推進会議には包括支援センター職員にも参加いただいているほか、日常的な報告や相談を通して、サービスの質の向上に向けた協力関係が構築されています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開設より利用者の行動を制限しない様に徹底している。又、職員の教育にも努めている。玄関の施錠はせずセンサーによるチャイムで利用者の出入りを把握し安全確認を実施している。	玄関の施錠は夜間のみとしており、言葉の抑制についても日々気付いた場面で確認しているほか、会議でも確認する機会を設けており、開設以来、ご利用者の行動を制限しないことを徹底しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	県または市の研修に管理者・職員が参加し、検討会やカンファレンス時には内部研修として発表し、職員に周知し虐待防止に関する意識の向上を図ると共に、虐待が見過ごされないことがないように努めています。	新入職員研修でも虐待防止について周知しているほか、虐待に関する事例検討を職員と一緒にを行い虐待防止に関する意識の向上を図るとともに、虐待が見過ごしにされないことがないように努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	県や市の研修に管理者・職員が参加し後日の朝礼時に職員に口頭で伝え、また回覧板で教育内容を全員に普及するように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類は予め、自宅にお送りし納得出来る様、先に読んで頂き再度ホームで説明しご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望等、気軽に聞かせて頂ける様、プラン等の立案時や、面会時、運営推進会議、毎月の各人へのお便り、外出外泊の連絡簿等で、それらの機会を設けている。	法人のグループホーム合同でご利用者会議を開催し、率直な意見や要望を確認しています。また、ご家族の面会時には意見・要望等を求めるようにしているほか、ご家族を招待しての山菜祭りや法人のグループホーム合同で家族会を実施し、ご家族との交流を通じ、サービスの向上に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼や月例検討会で職員が意見や提案を言う機会が設けられている。また週に一度くらいの度合いで管理者と各棟のリーダーによる話し合いの場を設けるなど配慮をしています。	日々の朝礼、月例検討会等で職員が意見や提案を言う機会が設けられていると共に、職員個々の毎月の目標の振り返りについても管理者及び社長からのフィードバックもされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格の取得のため、関係する研修等への参加を支援している。また福利厚生の中でも配慮を行っており、職員がやり甲斐を持てるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修を通して、個々の介護技術や知識の向上を図っている。また検討会などの機会に発表し、他の職員への啓発も促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との相互関係や見学を通し交流活動に努めている。他の事業所との研修活動を行いネットワーク作りに努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の縁の土地やこれまでの人生等の話に耳を傾けながら、安心した生活を送って頂けるように努めています。また個別ケア等を通して、本人の要望に応えられるよう努めながら信頼関係を築いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者や家族の不安な事や要望に対して柔軟な対応が出来る様、家族の都合に合わせた日時に訪問をしたり相談に乗ったりお話を伺ったりする事で信頼関係を築いております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	要望等、気軽に聞かせて頂ける様、プラン等の立案時や、面会時、運営推進会議、毎月の各人へのお便りで、それらの機会を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各利用者様の自立度に合った軽作業や野菜・山菜等の下ごしらえ、雑巾縫い、モップ掛け、洗濯物たたみ等 昔の生活が思い出せる様な作業を職員と一緒に作業し昔話や苦労話に耳を傾け労をねぎらっている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年4回のホーム便りや月々の手紙や写真を送付してホーム内での一人一人の日常生活の様子を伝えると共に、家族のお気持ちを聴きご家族の支援にも努めている。	面会時や年に4回のホーム便りや管理者からご利用者毎に毎月のお手紙の送付などでご家族へ情報提供を行なっています。また、ご家族が気持ちよく事業所に来られるよう配慮し、協力を得られるようにしています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が長年暮らしてきた集落の正月には賽の神行事に参加させて頂いたり、祭りや敬老会等積極的に参加し顔なじみの方々に出会う機会を設けている。又、ご家族の協力も得て墓参りやご自宅への帰省でご家族とのふれあいの場を支援している。	ご家族の協力も得て、お墓参りや映画鑑賞に出かけたり、スーパーへ買い物に出かけたり、外食に出かける方もいるなど、馴染みの人や場との関係継続の支援も行なっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が仲間意識を持ちお互いを尊重し合える場を提供する事により利用者様が居室にこもったり孤立する事が無いように努めています。又、利用者様同士のトラブルが生じないように職員一同気配りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族と連絡を取り利用者が不安なく暮らせるように、詳細な情報交換を行っている。住み替えによる本人のダメージを最小限に抑えるように電話等で相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人一人の日頃の会話や表情・行動を通じて思いを知ると共にご家族や面会者の話を伺いながら利用者様の意向や希望に添った支援に努めている。又、家族の無い利用者様には墓参りや慰霊祭など希望に添う様につとめている。	ご利用者・ご家族・関係者から聞き取った内容に加え、日常のケアの中から得た情報が職員間で共有されており、ご利用者の要望に応じたケアを実践できるように努めています。	調査時点で、介護計画検討時のご家族からの意向をどのように確認したのかが分かりませんでしたので、今後記録に残されることを期待します。
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話や家族の方々との会話を元にセンター方式を取り入れ、今までに過ごしてこられた生活や趣味、特技を把握し利用者が張り合いのある生活が出来るように努めている。	センター方式のアセスメントシートが活用され、事前面談や日々の生活で得た情報をケアプランに反映する取り組みが行われています。	アセスメントシートも定期的に見直しを行い、日々のやりとりで把握された情報も追加されることを期待します。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のラジオ体操、散歩時に心身状態をチェックし、掃除、レクレーション時では持っている力の維持に努める。職員ミーティング時には利用者一人ひとりの把握、情報の共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に一度のカンファレンスで介護計画のモニタリングを実施しており利用者の状態変化を意見交換し6ヶ月に一度の定期的なケアプランの見直しを実施、利用者にとってのケアに努めている。	月に1度のカンファレンスで介護計画のモニタリングを実施しており、6ヶ月に1度の定期的なケアプランの見直しとともに、ご利用者の状態変化による随時の見直しが行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	プラン、介護記録、看護記録、経過表などは個人ファイルによって記録している。職員の交代時には申し送りにより情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別性を大切にし、本人や家族の状況を把握し要望を取り込む事に努めている。コミュニケーションの中で要望を引き出し、柔軟なサービスの多様化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日頃から地元の医療機関や行政機関、町内会、小学校、中学校、保育園、畑の人等と交流の機会を設け、利用者がよりよい豊かな暮らしが出来るように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の要望に添い、かかりつけ医を決めて頂き医療と連携を取りながら健康管理をし家族に説明している。又、精神科の専門医の協力病院があり必要時には指導をして頂いている。	事業所に往診も来て頂いているほか、ご本人・ご家族が希望する医療機関での受診が行われており、かかりつけ医にもご利用者の情報をまとめた医療情報提供用紙を送付し、協力関係を築いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師がおりすぐに連絡が取れ、相談時には昼夜兼行でいつでもかかりつけ対応してくれている。日常の健康管理を元に医師との連携、通院、服薬等の医療活動を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	環境の変化は利用者様の不穏の元となる要因の一つであるが、出来るだけ退院ができる様、医療機関やホームの看護師及び職員も連携し努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向に添った支援を行う方針のもとに家族の方に説明を行い希望された場合には看取りの同意書を頂き医師・看護師・介護職員が支援体制を組み家族の協力を得ながら取り組んでいる。又、看護師は看取りにおける倫理的問題を学び本人の思い・家族の思いを代弁しつつ調整している。	ご家族の意向に添った支援を行なう方針のもと、ご家族への説明も行われ、必要に応じて看取りの同意書も頂き、医師との協力体制も築かれています。また、看護師は看取りにおける倫理的問題を学び本人の思い・家族の思いを確認し、調整しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命救急講習の受講や誤嚥時の対応の研修を行うことによって、全ての職員への周知徹底が図られている。	定期的な救命救急講習の受講と、誤嚥時の対応の研修などを行い職員への周知徹底が図られています。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルに基づいた定期的な訓練を、利用者も交えて実施している。また、周辺地域の方にも事業所の避難訓練に参加して頂いており、災害時の連絡体制も構築されている。	災害マニュアルに基づき、ご利用者も交えて夜間や離設を想定した定期的な訓練が実施されています。また、地域の方にも事業所の避難訓練に参加して頂いており、災害時の地域との連携体制も構築されています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個人の尊厳を重んじ、全職員でプライバシーの保持や言葉かけに配慮しながら接するように努めている。	個人情報の取扱いや羞恥心に配慮した対応などの職員に対する周知徹底が図られています。また、契約時に個人情報の取り扱いに関してご家族に説明し承諾が得られています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の言葉だけの表出にとらわれず、表情仕草からも本人の希望を知るよう努め、意とする事への決定に導くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の表情、仕草、行動等観察や職員の声掛けにより、希望に添うようゆっくりと過ごして頂くとともに、孤独にならないよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装等に注意し、不備な点はさりげなく、手直し支援している。また、定期的に理容師からホームに来て頂くと共に、ドライブ等のお出掛けには、おしゃれを楽しんで頂けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の行事食、馴染みの献立からバリエーションに富んだ献立を職員、利用者と考えている。	自然の食材に徹底的にこだわり、畑から収穫した野菜や山菜などの旬の食材が取り入れられています。また、ご利用者にも食事の準備や後片付けも手伝って頂いたり、ご利用者の要望に合わせて回転ずしやラーメン屋への外食の機会も設け、食事を楽しんで頂けるよう努力しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は生きる源である事を大切に、食材は無農薬野菜を多く使用し、栄養バランスのよい献立を考え、一人ひとりの一日のカロリーや水分量を把握して、摂取していただけるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きに自分でできない方には介助を行い、できる方には確認して口腔内の浄化、義歯洗浄剤を使って清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し適時な誘導をさりげなく支援している。失禁時には適温の清拭布を用いて清潔の保持を心がけている。	排泄チェックや様子などをもとに排泄パターン把握し、朝のミーティングや引継ぎ時に職員間で共有することで、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するため、野菜等十分な摂取が出来るように、献立の工夫や適量な水分の摂取を勧めている。また、新陳代謝が出来るよう、日課に散歩や体操に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者がくつろぎ楽しんで入浴できるよう手作りの、よもぎ湯でゆっくりと湯につかって頂き、リフト浴の方々にも安心して入浴し職員とのコミュニケーションにも努めている。	ご利用者がくつろぎ楽しんで入浴できるよう時間帯への配慮や、時期に合わせ、よもぎや菖蒲、バラなどを湯船に入れるなどの対応をし、ご利用者に楽しんでもらっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない利用者様には職員が話し相手になったり暖かい飲み物を提供したり等援助している。以前の生活歴を考慮し現在の状況も踏まえながら利用者様が安心して心地よく過ごせる様に職員の対応を含めた環境作りにつとめている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の指導により看護職員と協働し個々の服薬ケースを作り、飲み方・量について理解しケースの名前、手に取った薬の名前をしっかりと確認し、症状の変化にも注意を払うよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者各人のできる機能を支援し参加できるよう心がけ、お盆拭き、モップがけ手すり拭き、各自担当の場所の掃除など役割を持って頂き自分にもまだ出来るという生き甲斐ややり甲斐を感じて頂き楽しく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者はいつも施設内にいる日が多いため天気の良い日は散歩、ドライブなど楽しみにしており、地域の行事にも積極的に参加して頂いております。また歩けない方も生活の中で散歩や日光浴など楽しんで頂いている。	天気の良い日は散歩に出かけたり、ドライブの機会も多く作り、季節に応じたお花見や紫陽花見学、ぶどう狩りなどの外出の支援をしています。また、個別ケアに力を入れており、外食支援や買い物支援などの取り組みも確認できました。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の管理が出来る利用者は財布を持って頂き食べたい物や衣類、化粧品等、買い物の機会を設けている。管理が出来ない利用者には言葉を掛けて心に添えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が家族に電話をするときは音量を調整している。手紙を書けない人には代筆等の支援をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の各居室には今までの見慣れた家具や道具を置き、利用者が落ちける雰囲気を取り入れている。また月のカレンダーの色塗りをして頂き居室を装う飾の一部にしている。共有空間には季節に応じた模様替えを行っています。	事業所内のところどころに昔ながらの家具や道具を置き、ご利用者が落ち着ける雰囲気を演出することや、季節に応じた模様替えを行い季節感を出すようにされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先やホール等に椅子やソファを置き仲の良い同士、話をしたり笑ったり楽しめるよう、自由に過ごせることができる居場所作りに職員は心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテーブル、家具等の慣れ親しんだ物の持ち込みで思い出の写真の掲示など居心地よく、これまでの生活の延長で暮らせるよう配慮している。又、利用者様の介護状況により安楽・安全な環境を、看取りの時には家族がゆっくり過ごせる環境に努めている。	慣れ親しんでいる物の持ち込みの奨励や思い出の写真の掲示など、居心地よく、これまでの生活の延長で暮らせるよう配慮がされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	名札を居室の入り口に付け、自分の居室を確認していただき、歩行が弱く自らトイレに行かれる利用者の居室には、センサーを付け介助し転倒防止に努めている。		